

平成25年度事業報告書(H25.4.1～H26.3.31)

平成25年度は自民党による安定政権の兆しが垣間見え、加えて2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催の決定、富士山の世界文化遺産への登録と、明るい話題が続いたことから政財界では景気の上向きが囁かれています。同時に国の借金が一千兆円を超え、さらに平成26年4月からの消費税8%の実施など、景気の先行きが懸念される状況でもあります。

そのような中、当財団におきましては、賛助会員と多くの皆様のご支援を得て、第2回目となる市民公開講座「ご存知ですか？骨の健康」や骨量測定拡大キャンペーンをはじめとする様々な事業を実施致しました。啓発用資材の申込や一般からの問い合わせも増加しており、ますます啓発・普及が求められている状況を認識し、事業推進に取り組んで参りました。

以下にこれらの活動内容を概説します。

(1) 普及・啓発事業

イ) 骨粗鬆症に関する一般市民および保健医療従事者啓発資料 作成・配布

①ポスター

- ・「世界骨粗鬆症デー2013」のポスター「丈夫な骨を伝えていこう」

②パンフレット、リーフレット

- ・B5パンフ改訂「骨の健康、考えてますか？－丈夫な骨があなたの将来を支えます－」

- ・A4リーフレット

「毎日つづけようロコモ運動」

「ビタミンKを含む食品」「ビタミンDを含む食品」(干しシイタケのビタミンD含量分析調査：女子栄養大と共同)

- ・A4リーフレット「骨量測定結果の見方」(骨量測定拡大キャンペーンの一環として)

③単行本

- ・骨量測定装置設置先名簿(2012年12月現在)

- ・骨粗鬆症検診・保健指導マニュアル 改訂作業(データ改訂、Q&A、保健指導シートの追加掲載など)

ロ) 財団ホームページの充実と有効活用化

- ・トップページへのバナー広告(9社協賛)

- ・リニューアルに着手

ハ) Q&Aの対応

- ・メール、電話、Faxによる問い合わせへの回答(合計152件)

- ・「骨粗鬆症予防と治療ガイドライン2011」等からの転載許可対応

ニ) 財団主催・後援によるセミナー、講演会、イベントの実施

- ・市民公開講座2013「ご存知ですか？骨の健康 “いつまでも颯爽と歩き続けるために”」

日時：平成25年10月19日(土) 13時～16時

場所：光が丘IMAホール

講師：講演①太田博明先生、講演②石橋英明先生、講演③細井孝之先生

パネルディスカッション：「ドクターへの質問コーナー」講師3名・吉形玲美先生

お楽しみイベント：ピアノと歌の演奏(音楽家 秦万里子)

骨量測定、出展コーナー(乳製品、FRAX値測定)

参加者：334名(骨量測定：193名)

・「骨量測定拡大キャンペーン2013」

* プレスセミナー

日時:平成25年5月24日(月) 16時~18時

場所:女性のための統合クリニック「イーク表参道」

講演①「成長期から考える骨粗鬆症の予防ー母娘の骨量は遺伝する」

(聖マリアンナ医大 清水弘之先生)

講演②「女性にとっての検診の意味は?ー健康診断では骨量測定を受診してー」

(イーク表参道 渡邊多代院長)

出席メディア:13名

* 資料の作成「骨量測定結果の見方」財団ホームページよりダウンロードにて使用可

* 自治体の実態調査 アンケート質問票設計

・街頭大型ビジョン広告(Hot vision銀座)「世界骨粗鬆症デー」動画放映

平成25年10月1日~31日(9時から24時) 1,860回放映

映像はホームページにて常時公開

・財団後援によるフォーラム、セミナー

エーザイ「骨ケアサミット座談会2013」

小野薬品工業 地域学術講演会 等

ホ)地域骨を守る会の支援・連携

・第3回「全国骨を守る会連合会」の開催

平成26年2月2日(日) AP東京八重洲通り Cルーム

(参加)

札幌骨を守る会、新潟骨を守る会、高齢者運動器疾患研究所、東京骨を守る会、名古屋骨を守る会、金沢骨を守る会、京滋骨を守る会、骨粗鬆症・生活習慣病ネットワーク

・全国骨を守る会連合会のロゴマークの作成

・地域骨を守る会への支援

へ)財団ニュースの発行

・骨粗鬆症財団ニュース No. 23(6月)、No. 24 (1月)

ト)教育ゼミナールの開催及び記録集の作成

・第60回(平成25年7月26日(金)、AP東京八重洲通り Lルーム)

受講者:41名

講演Ⅰ「骨の微細構造・形態学からみた骨粗鬆症治療薬の細胞学的作用

ー最近のトピックスー」

北海道大学大学院歯学研究科 硬組織発生生物学教室 教授 網塚憲生 先生

講演Ⅱ「超高齢化社会における骨粗鬆症治療戦略

ー椎体骨折判定基準2012年改訂版の意義ー」

聖隷浜松病院 骨・関節外科部長 森 諭史 先生

・第61回(平成25年11月29日(金)、AP東京八重洲通り Aルーム)

受講者:48名

講演Ⅰ「骨粗鬆症検診の現状と課題」

医療法人財団健康院 健康院クリニック 副院長 細井孝之 先生

講演Ⅱ「関節リウマチにおける骨粗鬆症の機序とその治療」

東京大学医学部整形外科 教授 田中 栄 先生

・第59回記録集作成(平成25年7月発行)

・第60回記録集作成(平成25年11月発行)

チ)精度よくDXAで骨量測定するための講習会 5回開催

共催:GEヘルスケア・ジャパン、東洋メディック、日立アロカメディカル

後援:日本骨粗鬆症学会、日本骨代謝学会、日本骨形態計測学会

講師:福永仁夫先生、曾根照喜先生、友光達志先生

回	開催日	開催場所	受講者数
第8回	平成25年 5月19日(日)	東京	96
第9回	平成25年 7月28日(日)	名古屋	63
第10回	平成25年 9月 1日(日)	福岡	94
第11回	平成25年12月 8日(日)	高松	53
第12回	平成26年 2月 9日(日)	大阪	64
		計	370名

リ)女子中高生と母親の啓発活動

「成長期にある子供とその母親の骨密度強化啓発と親子の相関性調査」13年目、

聖マリアンナ医科大学 清水弘之先生の協力のもと骨量測定会を実施

・聖ドミニコ学園 :平成25年10月27日(生徒 37名、母親 31名、うち親子ペア 21組)

・洗足学園 :平成26年2月25日(生徒 170名、母親 40名、うち親子ペア 16組)

(2)研究助成事業

イ)平成25年度 3研究助成の交付

(研究成果報告はOsteoporosis Japan誌上に26年度掲載)

(1)第21回(平成25年度)財団研究助成

研究期間:平成25年4月~26年3月 助成金額:1件80万円 応募者数 20件

	課 題	所 属	氏 名
1	ステロイド大量療法下における骨折リスクの評価と予防戦略の確立	神戸大学医学部附属病院 免疫内科	蔭山 豪一
2	ゾレドロネート反復投与による創傷治癒遅延の予防、治療法に関する研究	神戸大学大学院 医学研究科外科系講座 口腔外科学分野	古森 孝英
3	歯科用X線写真における下顎骨海綿骨および皮質骨の統合視覚評価における骨粗鬆症患者および骨折リスク患者スクリーニング法の開発	松本歯科大学歯学部 歯科放射線学講座	田口 明
4	亜鉛イオンのシグナルによる骨密度制御機構の解明 -病原性亜鉛トランスポーターZIP13 ^{G64D} の解析-	理化学研究所横浜研究所 免疫アレルギー科学総合 研究センター	深田 俊幸
5	骨粗鬆性椎体骨折に対する経皮的バルーン椎体形成術(Balloon Kyphoplasty:BKP)施行後の隣接椎体骨折予防法の検討(有限要素法を用いて)	千葉市立青葉病院 整形外科	萬納寺 誓人

(2)第9回(平成25年度)リリー研究助成プログラム(骨領域研究)

研究期間:平成25年1月~25年12月 助成金額:1件80万円 応募者数 42件

	課 題	所 属	氏 名
1	思春期特発性側弯症患者における骨形態測定法による骨成長と骨代謝評価	横浜市立大学付属病院 運動器病態学	青田 洋一
2	脊椎固定術を施行した骨粗鬆症患者における、週一回投与型PTH製剤と連日投与型PTH製剤の骨癒合及び骨リモデリングへの影響についての比較検討	東京医科歯科大学医学部 附属病院 整形外科	猪瀬 弘之

3	Wntシグナル伝達因子を主眼においた骨粗鬆症とメタボリック症候群に関連する新規バイオマーカーの探索と同定	東京大学医学部附属病院 22世紀医療センター 抗加齢医学講座	浦野 友彦
4	筋ジストロフィーに伴う骨粗鬆症に対する骨吸収抑制薬の治療効果についての検討	大阪大学大学院医学部器 官制御外科(整形外科)	柏井 将文
5	ステロイド性骨粗鬆症に対するテリパラチド投与による血清可溶性RANKL、OPGに関する臨床研究	東邦大学医学部医学科内 科学講座膠原病分野	金子 開知
6	骨形成不全症におけるゲノムワイドCGHアレイ解析	東京都立小児総合医療セ ンター	高木 優樹
7	関節リウマチと脂質代謝及び骨粗鬆症の関係を調査するための前向きコホート研究(TOMORROW研究)	大阪市立大学医学部 整形外科	多田 昌弘
8	慢性腎臓病(CKD)患者における血清遊離型 α Klotho およびFGF23濃度測定による骨粗鬆症の発症リスクと生命予後予測の試み	高知大学医学部内分泌代 謝・腎臓内科学講座	寺田 典生
9	思春期女子における高PBM獲得に必要な至適身体活動量、栄養摂取量の検討	三重大学教育学部保健体 育科	富樫 健二
10	慢性閉塞性肺疾患(COPD)患者における胸部CTデータを用いた骨密度・骨粗鬆症の評価 - Shiga COPD registry (SCORE) データを用いて-	滋賀医科大学内科学講座 (呼吸器・循環器)	中野 恭幸

(3) 第6回(平成25年度)旭化成研究助成プログラム(骨粗鬆症QOL研究)

研究期間:平成25年4月~26年3月 助成金額:1件50万円 応募者数 24件

	課 題	所 属	氏 名
1	骨粗鬆症を伴う中高齢者のQOL向上に対する脊柱バランス・筋力訓練の効果	名古屋大学医学部整形外 科	今釜 史郎
2	骨粗鬆症を伴う脊椎後弯変形によるQOL低下と体幹筋力	愛知医科大学整形外科	神谷 光広
3	副甲状腺ホルモン誘導物質であるテリパラチドの連日投与製剤および週1回製剤は椎体骨折治癒期の疼痛抑制およびQOLの改善効果があるか否か明らかにすること	埼玉医科大学整形外科	田中 伸哉
4	テリパラチド酢酸塩の間欠投与は人工股関節置換術後のQOL、ステム周囲骨密度を早期に改善させるか?	福岡大学医学部整形外科	中村 好成
5	骨粗鬆症および椎体骨折が運動機能に与える影響 -地域住民対象コホート研究より-	三重大学大学院医学研究 科スポーツ整形外科	西村 明展
6	サルコペニア(加齢性筋肉減少症)は骨粗鬆症患者QOL低下の要因となるのか? 地域住民疫学調査による検討	名古屋大学大学院医学系 研究科整形外科	飛田 哲朗
7	潜在性骨粗鬆症性椎体骨折を発見するための各種身体所見の精度とQOLとの関係	佐賀大学整形外科	森本 忠嗣
8	脆弱性橈骨遠位端骨折患者における観血的固定術後の骨癒合および骨粗鬆症に対するテリパラチド製剤の影響に関する研究	大阪大学大学院医学系研 究科器官制御外科学整形 外科	吉川 秀樹

ロ)平成24年度助成分 成果報告の雑誌掲載

- ・第20回財団研究助成 報告書 5題掲載 :Osteoporosis Japan Vol.21 No.4, 2013
- ・第8回リリー研究助成プログラム報告書 10題掲載 :Osteoporosis Japan Vol.21 No.3, 2013
- ・第5回旭化成研究助成プログラム報告書 5題掲載 :Osteoporosis Japan Vol.22 No.1, 2014

(3) 調査・研究事業

イ) FRAX[®] の評価・検証事業

WHOが推進しているFRAX(Fracture Risk Assessment Tool)の日本への適応検証

- ・「FRAXに関するアンケート調査結果の概要 骨粗鬆症治療に積極的に携わる医師に対する認知度および活用状況調査」のパンフレット作成
- ・追加解析「FRAX値を骨粗鬆症のスクリーニングに用いる場合の閾値に関する検討」

ロ) 骨粗鬆症治療薬の服用に関するアンケート調査

「HAPPINESS-J Study」平成24年12月～平成26年11月:2年継続事業

調査依頼医療機関:目標10,000例、2,000施設(3/6現在 14,664例の調査票回収済)

ハ) 大腿骨近位部骨折全国調査(岩手医科大学)

2012年度調査の実施、結果集計中

(4) 情報収集&ロビー活動等

イ) IOF関連

- ・ESCEO13-IOF 平成25年4月17日～20日(ローマ) ポスターセッション 細井孝之先生参加
- ・患者会世界大会 平成25年5月31日～6月2日(ヘルシンキ) 鈴木敦詞先生参加
- ・Board Member定期会議(テレビ会議) 平成25年11月25日 折茂 肇理事長出席
- ・第4回IOFアジア-パシフィック地域会議2013 in 香港 出展(末廣、山田参加)
平成25年12月12日～15日 於:香港コンベンション&エキシビション・センター
展示:WOD銀座啓発動画の英語版、財団作成WODポスター・市民公開講座ポスターの英文解説

ロ) 健康日本21推進全国連絡協議会との情報交換(第16回総会に参加)

ハ) 全国酪農業協同組合連合会より、財団活動助成金として寄付金100万円